

10.78

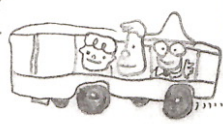
# 泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社  
0724(83)24653

## 篠山マラソン大会に

### 参加して(我が闘争)

会長 透健三



「あの人だけには負けたくない」と何時のマラソン大会にもそう思います。(ほんまですよ)。

私達のマラソン大会は、所詮遊びです。から、別に勝たないでいい。ところがありませんが、篠山マラソン、これは昨年よりわがっていることで、否、篠山マラソン終ったときに、レースの結果よりして、来年こそは、自分の納得のゆくレースを。それには、充分走り込みをせねばならぬと思うのですが、それが出来ないのです。

さて、私は今年一月より月間三〇〇キロを目標にして走り込む予定でした。何故ならば、「あの人」にだけは負けたくないからです。

カルガリー冬期オリンピック大会の黒岩彰、伊藤みどり、橋本聖子選手立派でした。かの人達は四季を問わず、昼夜を分けず、トレーニングに励んだとのこと。私もあの人にだけは負けたくない。それで、昼夜を分けず走る積りでいたが、結局は駄目でした。人に勝つより先に

お知らせ

例会日 三月二十日 午前九時 新象公民館

負けた。私は早朝マラソンを行っており、夏は朝五時、冬は六時と定めておりますが、走ることより、朝起きるのが辛い。また、日中は何かと、野暮用があり、一月三〇〇キロは、とてもおぼろげな無理でした。さて、二月愈々、フルにむけてのトレーニングを行うとしていたところ、とんでもないしよもない事が起り、それにか、りきりで、そして二十九日に左足親指のつけ根を痛める。また、もう篠山は駄目だと思つた、とにかく参加することをすま。

さて、マラソン、スタート、ここで大失敗。当日は天候が曇り、篠山にしては珍らしいびあと思つてランニングシューズにて走る。それがどうでしょう、走っているうちに冷たい、ランニングシューズはランナーの一刻か二割位です。半そでか、長そでにすべきでした。タイツを穿っていたのはせめてものでした。そのうえに人々、人々で走れない。や、と五キロ二十五分を通過、こんなことをして

いては、どうなるのか、隣りのランナーに「このペー」スで、人について行けばいいか、早いのか、遅いのかわからないと詰す、そのランナーは「これは遅いですが、これはキロ六分ハズレと返事あり、やはり六分ペースでした。十キロ六分を通過、私にとってはこれは遅い、そのうちエさんと会う。私の前にも、もう一人のエさんが走っている。前門の虎が、負けたくない、頑張らなくては。それにして冷たい。手がびびる、汗をかくことなど、腕に塩の粉がふいて、さき食、いぼって走る。折り返し地点をまあまあタイドを通過する。

そして三十キロの地点にむかう。なんと二十四時五分であった。あ、もう駄目だ、これはフル四時間を切ることは出来ない、三十五キロ地点を二十四時三十分にて通過、いよいよ駄目。私の根性、これからだ。私の本領を発揮せねばならぬと思つた。冷たい。又しても失敗、とて置の靴のために靴にかまれる。(充分履き、脱いだ靴でないと駄目です)足が焼鉄板の上を歩くようです。そして、親指のつけ根が痛い。今更どうすることも出来ない。右道の人達が、後五キロ、三キロ頑張ると声援して下さいます。私には、あの人にも、この人にも、自分にも負けたくない。もうい、早くゴールするのでなく、着替の置いてある体育館へ帰りたい。そして、火店で売っていた熱燗を一杯モとのみたい。私には四季を問わず、昼夜を分たず、熱燗が、い、い、い。遂にゴールする。そして、熱燗と思つたが、去年もそうであつたが、ぬる燗であつた。まあ、仕方ない。私にはアルファルであらばよい。フランクフルトにケチャップをい、つけて乾杯する。タイ

ムは四時間十四分三十四秒であつた。来年こそは頑張らな。それには自分自身に勝たねばならない。これを我が闘争ではなからうかと思つた。

追伸  
篠山マラソンに参加した才御苦勞で、た。苦勞をした体験は困難を乗り越えて、心の支えとなる事です。又頑張らな。

